

小學作法一班

佐久間舜一郎
進藤貞範

編輯三

佐久間舜一郎 編輯
進藤身範

小學位法一班

岡山縣師範學校威版

小學作法一班卷之三

第一章

父母兄弟姉小事ふる作法

子弟たるもの。其父母兄弟姉小事ふる者。人の世小立つ始小て稍長なる小随ひて上ハ。

天皇陛下小事へ奉るを始とし。下ハ親族朋友より。其他衆くの人小

小學作法一班卷之三

交るの元素なり
心小誠ありて。其誠を外小表ハモ
を禮といひ。亦作法と云ふなり
何如小心小を敬ふの誠ありても
其外貌不遜の容あれば。人小一て
人たる作法を知らざるものと云
ふべきなり。
然れば。父母兄弟の召し給ふこと

あらば。聲小應ト
て其場小至り。跪
きて兩手をつま
命ト給ふ用事を
聴くべし。
いり小心いそが
しき時小ても。必だ立ちながら聴
くべうらば。

母の用事を聴く図



父の命を受けらるる



父母兄弟の物を賜ふことあらば

父母椅子小在
を。或ハ立ち
て居給ハ。其
前小立ち至り。
身を屈め手を
膝小して。命を
受くべし。

必に受け戴きて拜禮をべし。親
き小任せて。立ちながら受け取り。
禮せざして去る如き。無作法の事
あるべからば。

父母兄弟小物を進む小を。其立
ちて居給ふ時。或を椅子小在を
ときならば。少しく腰を折り屈め
恭しく呈をべし。

或ハ坐卧して居給ハゞ。跪きて進むべし。
何れ小ても立ながら。差し出し。又遠くより投げ與ふるなどをべからば。甚しき失禮なり。
父母兄弟の人と對話し給ふ席小て。必に暴々敷立ち騒ぐべからば。

假令父兄ハ親しみて許し給ふことあるも。人小對して失禮なり又其人必に父兄の教へなきを惡むものゆゑ。父兄小對しても。大なる不孝不悌となるなり。子弟たるもの慎しみ記して。忘るべからば。祖父母叔伯あるときハ。父母小事ふると。同ト禮と知るべきなり。

第二章

家を出入する作法

子弟たる者ハ。出るときハ必^レ其
父母或ハ兄弟小向^レ。丁寧小挨拶
して行くべし。
歸らバ。又必^レに告^レげて。挨拶をべし。
同輩の來りて。遊び小誘ふことあ
るも。父母兄弟の許し給ハぬ處小

ハ行くべし。
門戸を出入する時ハ。必^レに急遽^{（あはれ）}
く飛び走るべし。
出入とも小。凡て静^{（しず）}なるを善^{（よ）}と
す。只拔足して偵^{（あ）}ひ入るを。よら
ぬ事と知るべきなり。
閉ぢたる門戸ハ。必^レに徐^{（ゆる）}々小開^{（ひら）}き
て出入し。後^{（あと）}を必^{（かな）}ず閉^{（と）}めて去るべ

し。開け放ちたるまゝ去るべうら
ば。

第三章

學校小出たる時の作法

毎日學校小出でたるときハ。先づ
諸教師小拜禮をべし。
始業以前ハ。溜り小在りて。科業の
書類用具を取り揃へ。時間の來る

と待ち居るべ
し。
溜り小在りて。
喧嘩爭論をべ
うらば
學校小ても。常
小規則を執り
守り。教師の訓

學校小出たる時の作法



へ小背くべからば。
 受業の間ハ。餘念なく業を受くべ
 1。
 他を顧み。物を弄び。足を動つたな
 どをべからば。
 運動遊歩の時間ハ。定め規則小
 随いて。十分小遊び樂しむべし。
 然れども手^て暴^あきことハ為をべ

らば。
 石瓦竹木の類
 を弄び。危険の
 遊びハをべ
 らば。
 井小近づき。木
 小攀るなどな
 をべからば。

學校運動場の圖



遊あそび小託たのして。同輩どうはいを打擲うちなし。又。押
顛倒こころがして。痛いたく苦くるむるなど為なす
べからば。

総すべて。運動うんどうハ。心こころを爽さわ々さわ小こし。体ていを健
々げんげん小こまるの手段てづかなり。故ゆ小こ身みを害がい
し。心こころを勞らうまることをなすべからば。

學校がく小こて食しょく事じをなささむ。必かなず徐じゆ々々

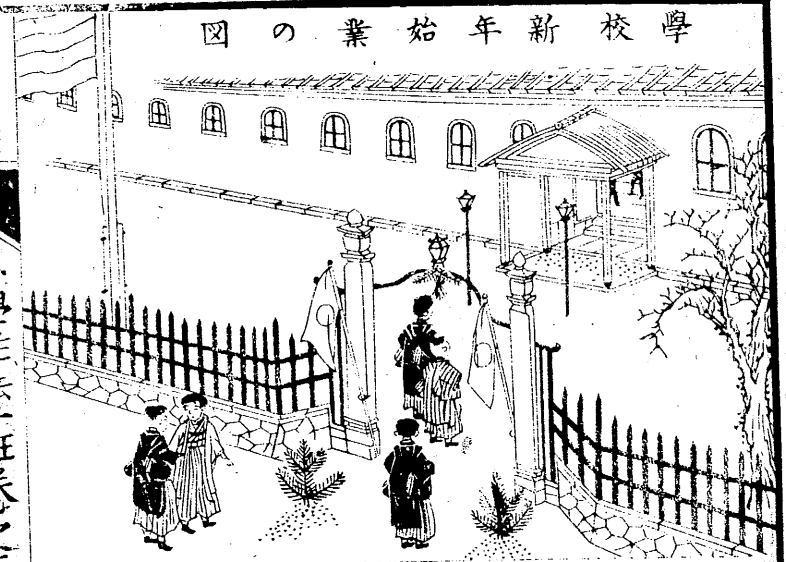
小食せうじきすべし。

食卓しょくたく小こ茶ちやを流ながし。煮物にものの汁じゆを反かえす
など。無作法むさくはの事ことあるべからば。
業わざを終おりて歸かへる小こハ。復また諸しよ教師がうし小
拜禮はいらいし。書類しゆり用具ようぐを取とり収おさめ持もち
返かへるべき物ものあらば。包かみ小こ確かくと取と
り結むすび。正ただしく持もちて返かへるべし。

第四章

學校小て儀式ある時の作法
 年始々業の時小を盛服〔禮服或ハ
 羽織袴〕を正しく着成し。同輩を誘
 ひ合ひ。打連て上校をべし。
 盛服ハ。華美を飾る小及バ。只清
 潔小して。垢のつゝぎるものを着
 くべきなり。
 己小上校なきバ。役員諸教師おど

學校新学年始業の圖



小敬禮し。定り
 たる坐席小就
 きて。儀式の報
 号を待ち居る
 べし。
 凡て學校の儀
 式小ハ。在官高
 貴の人々。臨場

せらるゝ事なれば。特小行儀を正しくし。進退舉動を慎みて。假小も紛擾をべからば。

儀式の以前小便所小行き。席小就きてハ。動ゝぬ用意をなし置くべし。
 着席をべき報[号報]あらば。教師の指揮小随ひて。列を正しく場小入

り。順等次第小坐小就くべし。官員校長及び諸教師役員列坐の後。禮式をべき指揮あらば。一同起て敬禮[最敬禮]をべ

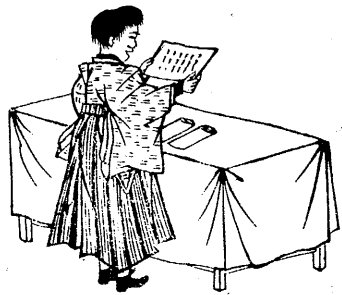
學 校 始 業 式 の 圖



1。
 官員校長及び諸教師役員各祝詞
 を演べられ。或ハ祝文朗讀などあ
 るときハ。其度ごと小。一同座次の
 まゝ。小起立。兩手を垂れて。袴の
 紐下小て掌を上小なし。左右の指
 を組合せ。体格を直まくなして謹
 聴をべし。

次小生徒の祝文ありて。自己の順
 次小當り一時ハ。徐々小歩して場
 小就き。上坐小
 向ひて一禮し。
 右の手小て懐
 中の祝文を取
 り出し。左の手
 小持ち直し。右

祝文を朗讀する



手を添へて巻を展べ。兩手小て中
分小開き持ち。音聲清らう小朗讀
をべし。
讀み終りなど。巻き収めて。正面の
案頭小差し載せ置き。再び上坐小
向ひて一禮し。自己の坐席小還る
べし。
儀式の間ハ。吐伸耳語おひのりなど為るべ

うらげ。
如何小退屈致をも。慎みて容姿
小見ハ恥ことなく。退場の指揮あ
る時を待ち居るべし。
儀式の終り小ハ。教師の指揮小隨
ひて。一同起て敬禮をべし。
退場の時小ても。我先を争ひて。猥
り小自己の坐席を立つべうらげ。

教師の指揮を待ち合せ。人と同ト
く進退をべし。
祝盃或ハ菓子菓物など賜ハらバ。
或ハ食堂小で飲食し。又ハ家小持
ち還ることとも有るべきなり。
是れ亦教師の指揮小従ふべし。自
己の勝手小任せて。假初小も無作
法の事をべからば。

卒業證書授與式を。特更重き儀式
ゆゑ。證書を受る生徒小を。謙退辭
讓を旨として。落第生徒を侮らば。
又。同輩と相誇らば。禮儀を守りて
坐小在るべし。
己小儀式の場小入り。教師我名を
呼び給ハバ。兩手を膝の邊あひだ小垂れ
体を直くして。飛バを走らば進み

行き机案の前三足をわりの所小
 至り直立して敬禮をべし。
 此時證書を取りて賜らば直小机
 前小進み寄り少く腰を折り屈
 め左の手小て證書を受け右手を
 添へて押し戴き左の手小持直し
 体を直小し左の足を先づ引きて
 三足程跡退り右手を添へて證書

を開き一見して
 巻き収め復左の
 手小持直し始の
 如く敬禮し其儘
 後小退くべし
 進退何れの時小
 ても横目流し目
 空目などをべし

卒業證書を受く図



小書作法三現考
 十四

らば。

又左右前後を見廻すべからば。行歩小。体を反ら

図るたしら反と体



図の行歩体正

り。したるを横柄な腰を屈めたるを憂なり。



足を高上げをることなく。又。摺り足をべからば。餘り大股あるも。

図るため屈と体



又。小股小走るも皆不可なり。遅からむ。早からば進退均一なるべきなり。

小學作法一班卷之三 畢

明治十七年一月十日版權免許
全 年三月出版

著者

岡山縣平民

佐久間舜一郎

備前國岡山區西川
九十九番屋敷居住

全縣士族

著者

進藤貞範

全國全區門田屋敷
三十三番屋敷居住

出版者 岡山縣師範學校藏版

岡山區榮町

製叢

西尾活版所

岡山區中町

本兌

渡邊祐吉

各國專賣所 柳原喜兵衛

大阪心齋橋
北久太郎町

摺物製本題

東京

山中市兵衛

姫路

山野長兵衛

全

丸屋善七

福山

整正理社

全

石川治兵衛

尾道

三木半兵衛

全

稻田佐兵衛

廣島

松村善助

全

前川善兵衛

山口

荒木豐次郎

全

花井卯助

萩

宮川臣吉

全

梅原龜七

下關

松原喜兵衛

全

前川源七郎

船木

立野榮次

全

松村九兵衛

福岡

生田新助

全

三木佐助

長崎

熊本吉藏

全

岡金真七

熊本

長島吉藏

全

藤井孫兵衛

高松

岡田為助

全

佐木惣四郎

德島

黑崎精二

全

田中治兵衛

全

全